

ベライゾン コミュニケーションズ(VZ)

【セクター】 通信サービス

【市場】 NYSE

【企業概要】

AT&Tとともに米国で最大級の通信サービス企業です。北米の市場シェアは、携帯電話契約者数がトップの31.3%、固定電話契約者数がAT&Tに次ぐ2位の16.7%、高速データ通信契約者数がAT&Tに次ぐ2位の6.3%です（18年）。部門別売上は、ワイヤレス部門が76%（うち52%がサービス収入、24%が機器・その他の売上）、ワイヤライン部門が24%（うち10%が消費者向け、14%が企業向け）を占めます（18年12月期）。

【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
17年12月期	126,034	15,297	3.74	2.34	10.6	46.6	17.4
18年12月期	130,863	21,158	5.12	2.39	12.9	44.0	20.7
19年12月期予想	131,361	19,495	4.79	2.43	14.6	34.4	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

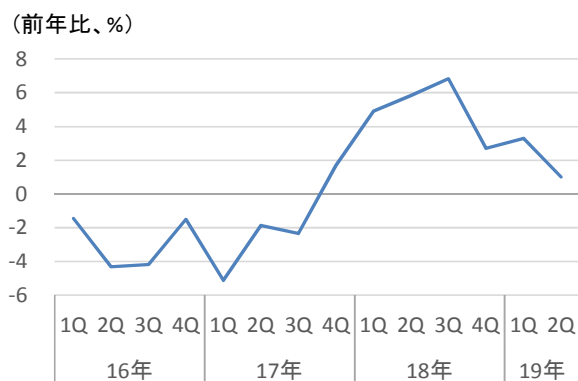
【主要指標】

図表1 北米の通信サービス市場シェア（%、18年）

ワイヤレス収入	
ベライゾン	33.2
AT&T	28.9
Tモバイル	16.8
スプリント	11.5
その他	9.6
ワイヤライン収入	
AT&T	44.2
ベライゾン	18.4
センチュリーリンク	14.5
BCE	5.6
その他	17.3

（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

図表2 ワイヤレス部門の売上高伸び率



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

コア事業であるワイヤレス通信、ワイヤライン通信ともに成長が成熟しつつある中、5G（第5世代移動通信システム）、デジタル広告（AOLとヤフーを統合した「Oath」）、テレメトリックス（遠隔監視サービス）などの分野に展開することで成長を目指しています。ワイヤレス部門の売上は料金が安いプランへのシフトが一服し、業界の競争状況が和らいだことで、前年同期比増収に転じています（図表2）。19年2Qは前年同期比1.0%まで鈍化したものの、機器売上の減少が足を引っ張っておりサービス売上は同3.1%増と堅調です。

【見通し・注目点】

4/4（木）に世界初となる5G（第5世代移動通信システム）サービスを「5G Ultra Wideband」としてシカゴとミネアポリスで始めています。典型的な回線速度は450Mbps（メガビット/秒）、ピーク時に1Gbps（ギガビット/秒）近くとしています。既存の通信無制限プランに月10ドルを追加することで利用できます。対応する端末はモトローラの「moto Z3」で、「moto mod」というアクセサリを購入する必要があります。同社は19年中に少なくとも30都市にサービス展開する計画です。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 19/8/28）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。